

柔道ルネッサンス活動に関する意識調査 －2010年全日本実業柔道個人選手権大会代表者会議出席者を対象に－

山田 利彦¹⁾, 金丸 雄介¹⁾, 石井 孝法¹⁾, 上水 研一朗²⁾, 金野 潤³⁾

了徳寺大学・教養部¹⁾

東海大学・体育学部²⁾

日本大学・文理学部³⁾

要旨

本研究は山田らの「柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年柔道ルネッサンスフォーラム参加者を対象に～」, 「柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年全国高校総合体育大会柔道競技監督会議出席者を対象に～」に引き続き, 2001年から2011年の間に行われた「柔道ルネッサンス」について, 2010年の全日本実業柔道個人選手権大会代表者会議出席者に対してアンケート調査を行い, その認知度や効果, 必要性等を把握し, 2014年4月1日に発足した柔道MINDプロジェクト等の活動に示唆を得ることを目的とした。活動の認知度については主なものを除いて3割を切るものが多く, 広報活動の必要性が示唆された。ルネッサンス活動に対する理解が高い者の方が積極的に活動に取り組んでいるという結果から, 積極的な活動を促すには理解度の向上に取り組む必要性が示唆された。この活動により柔道に対する意識は7割の者が「良くなった」, 「まあ良くなった」と捉えており, 柔道界にとって非常に有益な活動として認識されていた。活動の継続については, 93%の者が必要であると認識しており, これらの結果を今後の柔道MINDプロジェクトの充実に生かしていきたい。

キーワード：柔道, 柔道ルネッサンス, 全日本実業個人選手権大会, 柔道マインド

A Survey on Consciousness of Judo Renaissance Project: －A Follow-Up Case Study of the Participants in the Representative Meeting at the 2010 All-Japan Businessmen's Judo Individual Championship－

Toshihiko Yamada¹⁾, Yusuke Kanamaru¹⁾, Takanori Ishi¹⁾, Kenichiro Agemizu²⁾, Jun Konno³⁾

Center for Liberal Arts Education, Ryotokuji University¹⁾

Department of Physical Education, Tokai University²⁾

Department of Humanities & Sciences, Nihon University³⁾

Abstract

The purpose of this survey is to provide a suggested direction for Japanese Judo to take and suggestions for Judo MIND Project, which was started on April 1st in 2014, following the previous survey of Yamada et al., "A Survey on Consciousness of Judo Renaissance Project: A case study of the participants in the 2010 Judo Renaissance Forum" and "A Survey on Consciousness of Judo Renaissance Project: A follow up case study of the participants at the judo head coach meeting at the 2010 Interscholastic Athletic Meet." We collected opinions about the Judo Renaissance Project, which had been organized from 2001 through

2011. Our questionnaire was distributed to participants in the representative meeting held at the All-Japan Businessmen's Judo Individual Championship in 2010, in order to grasp their recognition of the Judo Renaissance Project, the project's effects and matters necessary to Japanese Judo. The survey shows that the degree of recognition about most activities was lower than 30 percent except main activities. Therefore it suggested that those activities should be publicized much more. In addition, coaches who had high recognition about this project conducted activities positively. In order to encourage them to conduct more positive activities, publicity activities take an important role. 70 percent of the subjects felt the images of Judo had improved as a result of the Judo Renaissance, and 93 percent of the subjects felt necessity of resuming the activity of the Judo Renaissance. It is very important to keep these results in mind in order to well organize the Judo MIND project for the future of Japanese Judo.

Keywords : Judo, Judo Renaissance, All-Japan Businessmen's Judo Individual Championship, Judo Mind

I. はじめに

2013年初頭から一気に噴出した全日本柔道連盟を取り巻く様々な不祥事により、柔道創始国としての日本柔道に対する信頼やイメージは国内のみならず、海外においても地に落ちることとなった¹⁻³⁾。その後、これら一連の騒動に一定の区切りがついた8月に、全日本実業柔道連盟会長であった宗岡正二氏が新たな会長となり、世間の汚名を払拭すべく、「変えねばならないことは徹底的に変え、変えてはならないものは、しっかり守り抜く⁴⁾」という方針を掲げ、様々な試みが始まった。その改革、改善の中核を担うべく、2014年4月1日に柔道MINDプロジェクト特別委員会が発足した。MはManners (礼節)、IはIndependence (自立)、NはNobility (高潔)、DはDignity (品格)を意味し、これら4つの単語を連ねたことには、柔道を行う者はこれら4つのことを守ってこそ「柔道家」と呼ばれるに相応しいのだということを明確に示そうという狙いがこめられている⁵⁾。またMIND自体は精神や心と言う意味であり、嘉納治五郎師範の精神に立ち返ろうという意味合いも含んでいる⁶⁾。こうした活動は2001年から2011年までの10年間、講道館と全日本柔道連盟との合同プロジェクトとして展開された柔道ルネッサンス活動を基盤にしており、暴力問題等の発覚後に直ちに立ち上げられていた暴力根絶プロジェクトを併せて、全柔連の一新後に発展的に名称を変えた⁷⁾。筆者自身も柔道ルネッサンス特別委員会では委員として直接活動に当たっており、また2015年より、柔道MINDプロジェクト特別委員会委員にも選出され、今後さらなる活動の充実を図るべく取り組んでいる。そこで、前々回の「柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年柔道ルネッサンスフォーラム参加者を対象に～⁸⁾」、前回の「柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年全国高校総合体育大会柔道競技監督会議出席者を対象に～⁹⁾」に続き、2010年全日本実業柔道個人選手権大会（以下実業個人）代表者会議出席者に対しての意識調査を分析し、実業個人戦に出場する選手たちの指導に当たる監督等の柔道ルネッサンス活動についてのイメージやその効果に関して実態把握と傾向を探り、今後の日本柔道界の発展、そして柔道MINDプロジェクトの活動充実に向けての示唆を得ることを目的として、本研究を行った。

II. 目的

本研究は、柔道ルネッサンス活動の認知・浸透度、そしてそれぞれの取り組みに関する実態を把握すると共に、効果的な活動内容を分析し、加えてその効果についてたずねることにより、今後の柔道界が目指すべき方向性について示唆を得ることを目的とする。山田らの柔道ルネッサンスフォーラム参加者に対し

での意識調査⁸⁾、2010年全国高校総合体育大会柔道競技監督会議出席者に対する意識調査⁹⁾に引き続き、実業団を中心に指導に当たる監督、コーチらが出席する代表者会議にてアンケート調査を行い、その現状を把握する。そして今後集計を行う各部門（小学校、中学、大学）の指導者たちの結果との比較検討の資料とする。

Ⅲ. 方法

1. 対象

2010年8月28、29日に兵庫県尼崎市ベイコム体育館にて開催された全日本実業柔道個人選手権大会前日の代表者会議参加者を対象にアンケート調査を実施し、55名より回答を得た。回答者の内訳は男性47名、女性8名、平均年齢38.7±12.1歳、平均柔道歴26.3±10.8年、平均段位4±1.8段であった。

2. 調査方法

1) 調査日

2010年8月27日の代表者会議にてアンケート調査を実施した。

2) 質問紙による調査項目

2010年に当時の全日本柔道連盟会長である上村春樹氏の意向により、2001年から始まった柔道ルネッサンス活動を開始から10年を区切りに、打ち切るとの方針が出された。この決定を受け、これまでの活動に対する理解度や認知度、そして効果などを検証する調査の必要性が柔道ルネッサンス特別委員会内で討議された。また、連盟トップの判断に対して実際の現場を預かっている指導者の柔道ルネッサンス活動継続についての意向も併せて調査することとなった。またこれまで活動に対して肯定的な意見は聞かれるものの、実際の印象や効果について調査した研究は行われていないため、柔道ルネッサンス委員会内にて挙げられた項目をもとに質問用紙を作成した。活動内容に対する一般的な認知の有無、その活動の基本理念の理解の有無及び活動内容の認知度、また代表的な活動（大会等でのスピーチ、横断幕掲示）に対する印象、実際の活動に対する指導者たちの取り組み、選手のマナーや観客の応援マナー、会場使用のマナー、そして活動による効果の有無、日本柔道を代表するナショナルチームの指導者や選手達のマナー変化や他競技と柔道選手、指導者のマナーの印象、柔道ルネッサンス活動の浸透具合に関する印象や効果、継続の必要性などについての印象を問う質問用紙を作成し、委員会の承認を経てアンケート調査を実施した。回答については5段階尺度を用い、一番当てはまると思われるものの単一回答を依頼した。（文末にアンケート用紙を添付。）

3) 統計分析

各質問に対する回答について単純集計を行った。併せて質問①「柔道ルネッサンスの内容を理解していますか」に対する回答により、理解群（理解している、まあ理解している）とそれ以外群（どちらともいえない、あまり理解していない）に分類し、質問⑥「柔道ルネッサンスに積極的に取り組んでいますか」に対して取り組んでいる群（取り組んでいる、まあ取り組んでいる）とそれ以外群（どちらともいえない、あまり取り組んでいない）に分類し、それぞれにおいてクロス集計を行った。統計的検定にはカイニ乗検定を用い、統計上の有意水準は $p < 0.05$ とした。

4) 倫理的配慮

無記名回答で個人が特定されないよう配慮すること、アンケートで得た内容は本研究以外には使用しないことの説明をし、同意を得た。

IV. 結果と考察

アンケート対象者の競技歴に関しては国際大会出場レベル22%、全国大会入賞レベル27%のもので、ほぼ過半数を占めており、全国大会出場レベルの29%も併せて全国大会出場以上が4分の3以上を占めていることから、全般的に競技歴の高い対象群であると言える（図1）。

指導状況に関しては実業団での指導者が6割近くを占め、その他では町道場や大学、高校などでの指導者も見られた。参加者は実業団チームとして活動している選手だけでなく、教員や刑務官、また地域道場等で練習し、参加している選手もいるため、代表者会議への参加者もそれをしっかりと反映した結果であった（図2）。

1) 柔道ルネッサンスの理解・認知度について

柔道ルネッサンスの内容について「理解している」が3割程度にとどまり、「まあ理解している」が43%でこの2つを合わせても8割には満たない結果であった（図3）。また柔道ルネッサンスは「嘉納治五郎師範が唱えた柔道の原点に戻る」ことを基本として活動を行っている事については、「知っていた」46%、「まあ知っていた」36%と合わせて8割以上が認識していると回答しており（図4）、全般的な理解・認知度は一定の水準には達していると思われる。

続いて柔道ルネッサンスで行ってきた個々の活動に関する認知度については、スピーチ（80%）、HP広報（64%）、横断幕（60%）の順に認知度が高かったものの、マナー向上（51%）、クリーンアップの（33%）を除くとその他はすべて3割を切っており、全般的な認知度については改善の余地を大きく残す結果であった（図5）。

また代表的な活動として認識されているスピーチと横断幕掲載の必要性についての質問に対して、共に「必要である」、「まあ必要である」とその必要性を認識している割合が8割前後という結果であり、必要な活動として認識されている事が伺える結果であった（図6、7）。

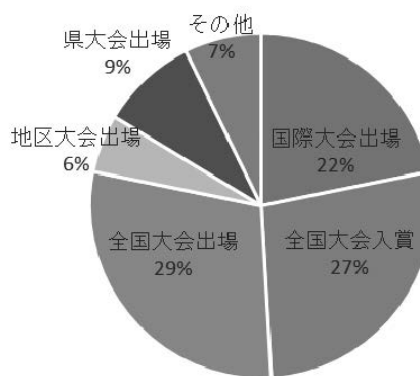


図1 競技歴について

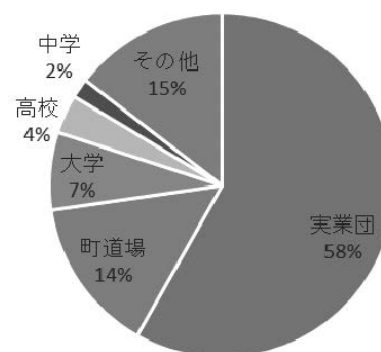


図2 指導状況について

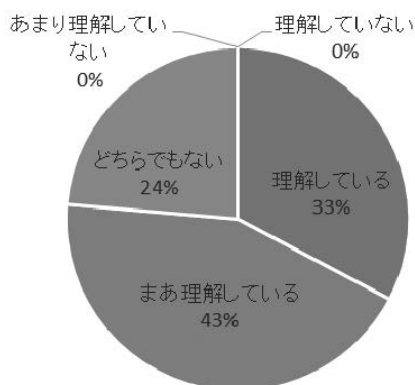


図3 柔道ルネッサンスの理解

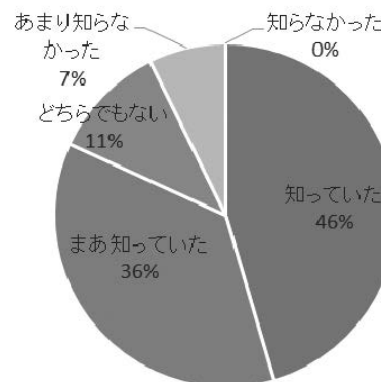


図4 活動の基本理念についての認識

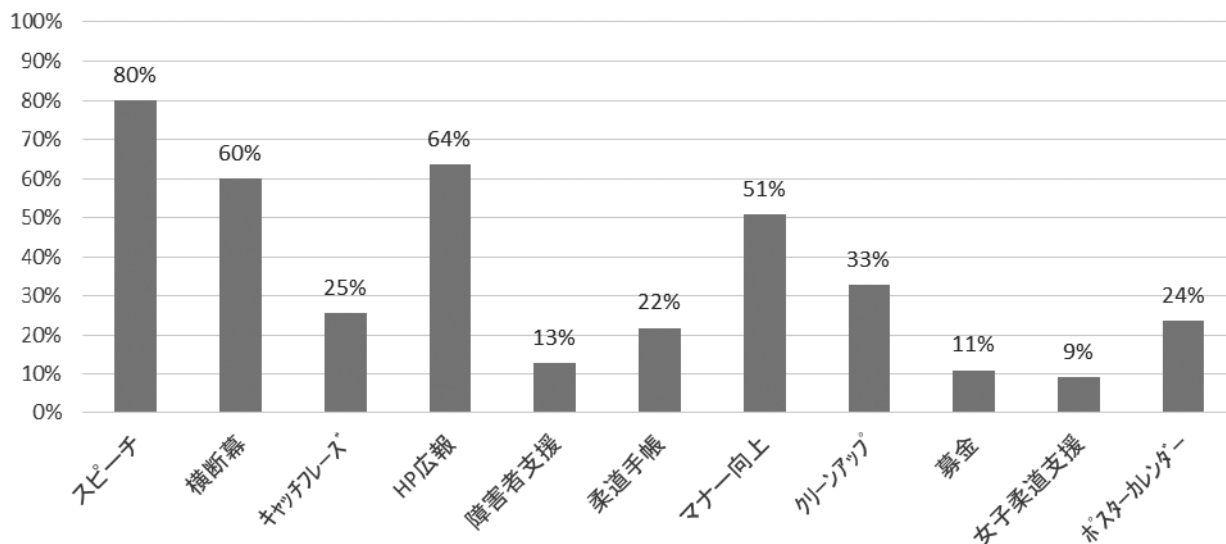


図5 活動の認知度

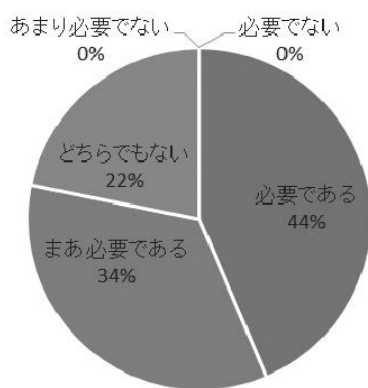


図6 スピーチについて

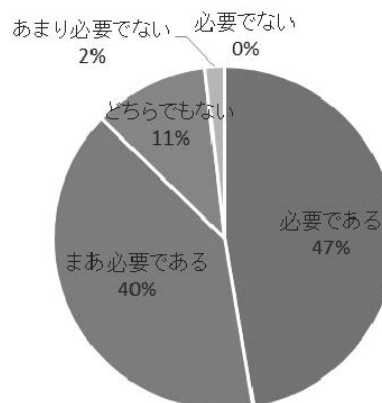


図7 横断幕について

柔道ルネッサンスによる変化についての意識

柔道ルネッサンスの柔道界への浸透度については、内容や理念の理解の8割前後の回答に比べると、「浸透している」、「まあ浸透している」を合わせても6割に届かない結果であった(図8)。

こうした状況の下、柔道ルネッサンスによる柔道界への変化については、選手のマナー、大会会場の使用マナーに関して、共に「良くなった」、「まあ良くなった」をあわせて、6割程度で、一定の効果は読み取れるものの、浸透度と同様に改善の必要性を感じさせる結果であった(図9、10)。

そしてこれらの結果と同様に、柔道ルネッサンスにより、柔道界は良い変化をしたかについても、「良くなった」20%、「まあ良くなった」42%の回答で6割以上となり、前問同様、

一定の効果は示唆されるものの改善の余地を示唆する結果であった(図11)。

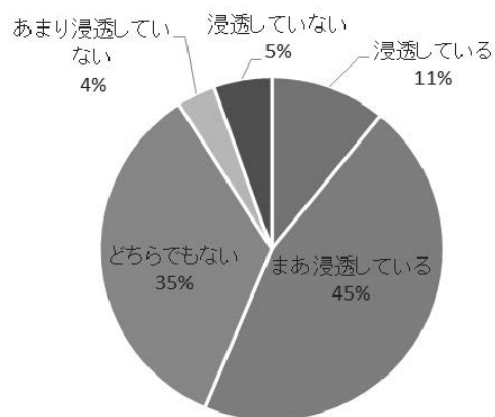


図8 ルネッサンス活動は浸透しているか

加えて観客の応援マナーについては、「良くなった」7%、「まあ良くなった」35%の肯定的な回答を合わせても過半数には届いておらず、「どちらでもない」との回答が5割もあったことから、応援マナーについては上述の前問に比べると、未だ改善点を多く抱えていることを示唆する結果であった（図12）。

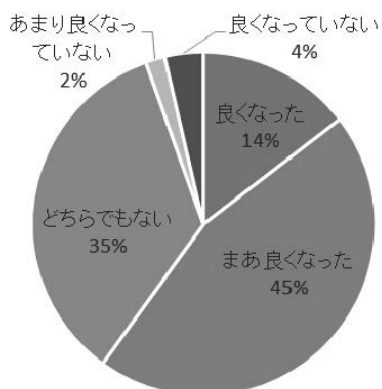


図9 選手のマナーについて

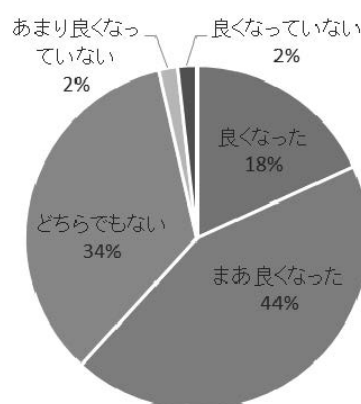


図10 大会会場使用マナーについて

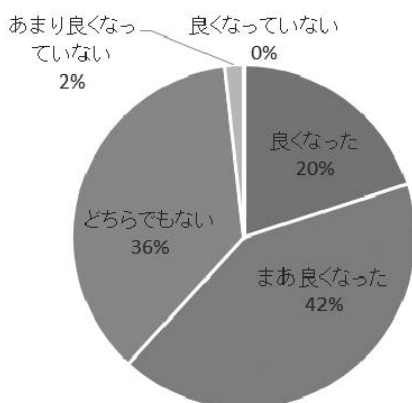


図11 柔道界は良い変化をしたかについて

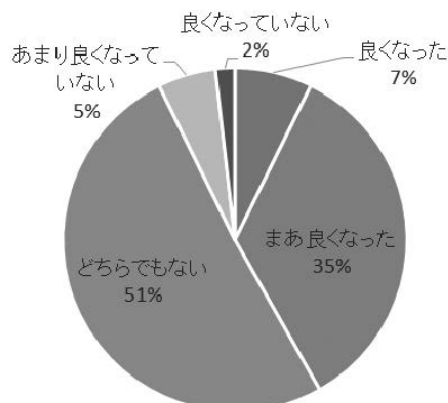


図12 観客の応援マナーについて

加えて、強化選手及び強化指導者のマナーの変化についての回答では「どちらでもない」の回答が共に4割以上を占めており、これは強化選手との交流がないため、詳しくは分からないとの意見も反映されている結果であると考えられる（図13, 14）。

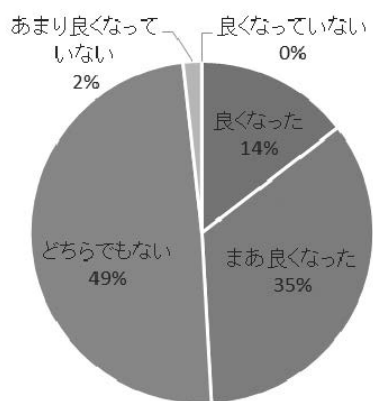


図13 強化選手のマナーについて

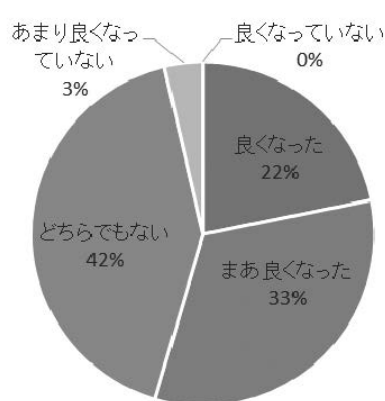


図14 強化指導者のマナーについて

しかしながら、選手に対しての肯定的な変化の割合が指導者に対してのものより低い値を示しており、また一般的な選手の変化と強化選手の変化の肯定的な回答にも開きがあり、日本を代表する強化選手たちのマナーの変化に対しては、今後さらなる改善の必要性が示唆される結果であった。また一般的な柔道選手及び柔道指導者のマナーを他競技と比べた場合、一般的に柔道選手のマナー及び指導者のマナーは他の競技と比べて良いと思いますかの間について、「どちらでもない」、「あまり良くない」、「良くない」の回答で共に6割程度を占めており、マナーについて他競技に比べて誇れる状態ではないことが推察される。特に指導者自身の回答として、選手よりも指導者の方が他競技と比べて肯定的に回答できていない状況は、柔道界の問題点として真摯に受け入れ、改善を要する点だと思われる（図15、16）。

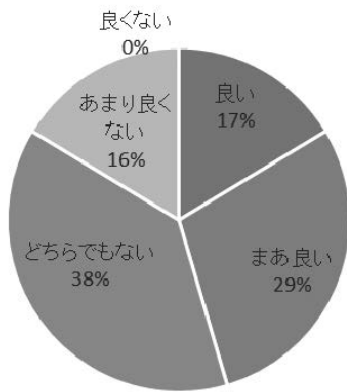


図15 柔道選手のマナーは他競技と比べて

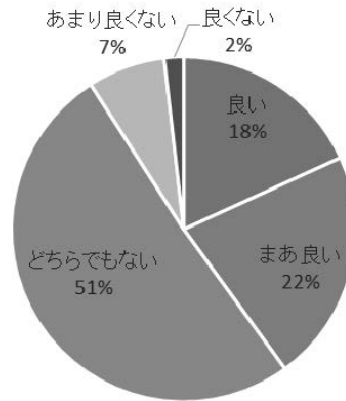


図16 柔道指導者のマナーは他競技と比べて

柔道ルネッサンスに対する指導者の意識と態度

柔道ルネッサンスに積極的に取り組んでいるかについては、積極的に「取り組んでいる」27%、「まあ取り組んでいる」31%にとどまり、残り4割の者はあまり活動に積極的でないという結果であった。指導者のこうした態度は選手にも大きな影響を与えることは自明の理であり、柔道界全体としてはもちろんのこと、実業柔道のさらなる発展を目指すうえで、この数値を向上させる必要性を感じさせる結果であった（図17）。

また、ルネッサンス活動により、柔道に対する意識が「良くなった」20%、「まあ良くなった」53%を含めて7割以上の者が肯定的な変化を感じているという結果であった（図18）。

柔道ルネッサンスは今後も継続していく必要があると思いますかとの間に関して、「必要である」と回答した者が60%を占め、「まあ必要である」33%を合わせて9割以上の回答者が今後も活動を続ける必要性を感じているという結果となった（図19）。

このように柔道ルネッサンスにより柔道に対する意識の向上が見られ、活動継続の必要性が強く望まれる結果であったことは、今後の活動の充実や必要性を探る上でも重要な意見であると言える。

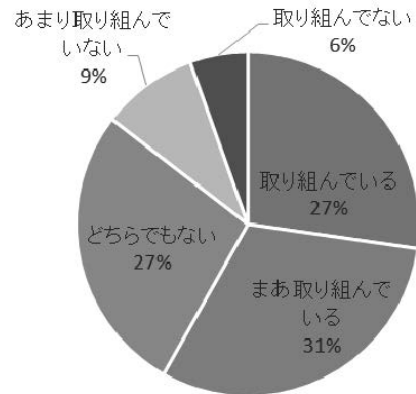


図17 積極的に取り組んでいるか

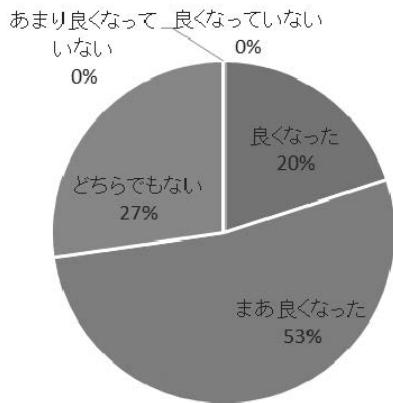


図18 ルネッサンスによる柔道に対する意識変化

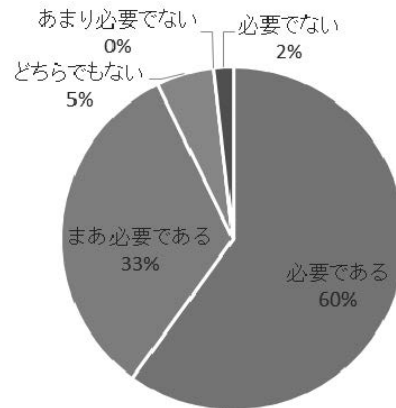


図19 ルネッサンスの今後の継続について

2) 柔道ルネッサンスの理解度と変化に対する意識の相関関係

柔道ルネッサンスの理解度と柔道ルネッサンスによる変化に対する意識の相関をみてみる。質問①「柔道ルネッサンスの内容を理解していますか」に対しての回答により、理解群（理解している、まあ理解している：N=42）とそれ以外群（どちらともいえない、あまり理解していない：N=13）に分類し、カイ二乗検定を行い、統計上の有意水準は $p < 0.05$ とした。活動の理解度と変化に対する意識の相関関係には、有意差は見られなかった。しかし⑮ルネッサンスが柔道界に十分浸透しているかについては、それ以外群の方が理解軍よりも、「どちらでもない」、「浸透していない」と回答した傾向が見られた。

3) 柔道ルネッサンスの理解度と指導者の意識・態度との相関関係

質問⑥のルネッサンスに積極的に取り組んでいるかについて「取り組んでいる」、「まあ取り組んでいる」と回答した割合が、理解群がそれ以外群に対して有意に高い数値（ $p < 0.05$ ）を示し、「どちらともいえない」と回答した割合では、理解軍に対してそれ以外群が優位に高い数値を示した（ $p < 0.01$ ）。ルネッサンスの活動に対する理解が高いの方が、活動自体に対して積極的に取り組んでいることが示唆される結果であった。（図20）柔道ルネッサンスに対する理解度を向上することによって、指導者の積極的な関わりや活動の向上につながることを読み取ることができ、広報活動の重要性が示された結果となった。その他では有意差こそ出なかったものの、⑭一般的に柔道指導者のマナーは他の競技の指導者と比べてどう思うかについて、理解群の方がそれ以外群に対して「良い」と回答する傾向が見られ、それ以外の方は「良くない」と回答する傾向が見られた。

4) 柔道ルネッサンスへの取り組みと変化に対する意識の相関関係

続いて、質問⑥「柔道ルネッサンスに積極的に取り組んでいますか」に対して取り組んでいる群（取り組んでいる、まあ取り組んでいる：N=32）とそれ以外群（どちらともいえない、あまり取り組んでいない：N=23）に分類し、カイ二乗検定を行い、統計上の有意水準は $P < 0.05$ とした。分析の結果、⑮ルネッサンスが柔道界に十分浸透しているかについては、「浸透している」と答えた割合が、取り組んでいる群の方がそれ以外群に対して、有意に高い数値（ $p < 0.05$ ）を示し、「浸透していない」と答えた割合ではそれ以外群の方が取り組んでいる群より優位に低い数値（ $p < 0.05$ ）を示した。積極的に取り組んでいる群は、自分たちの活動を含めても活動に対する浸透性を感じており、それ以外群では十分に浸透していないと感じていることが伺えた。

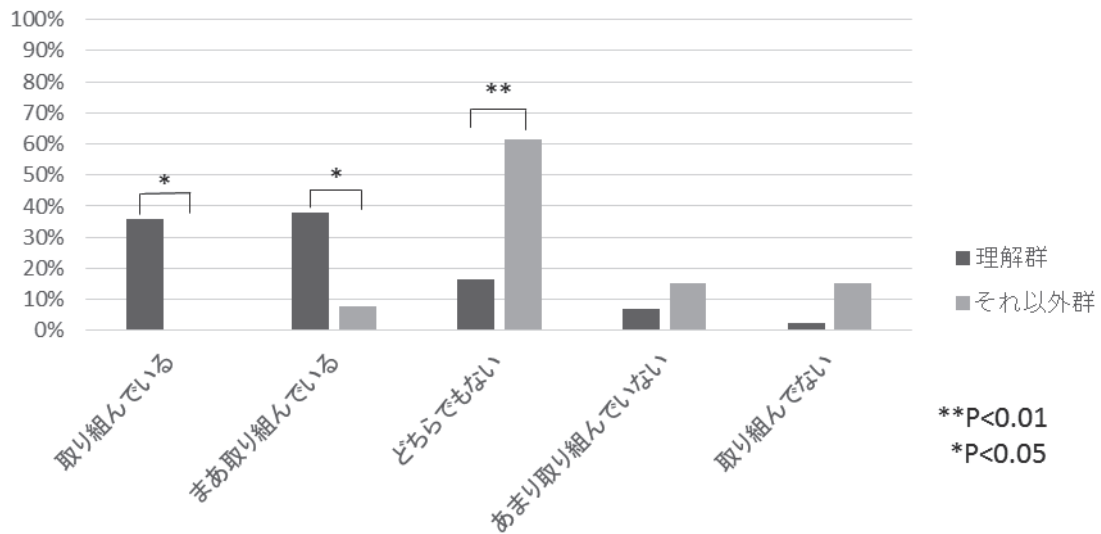


図20 理解群とそれ以外群の取り組みについての比較

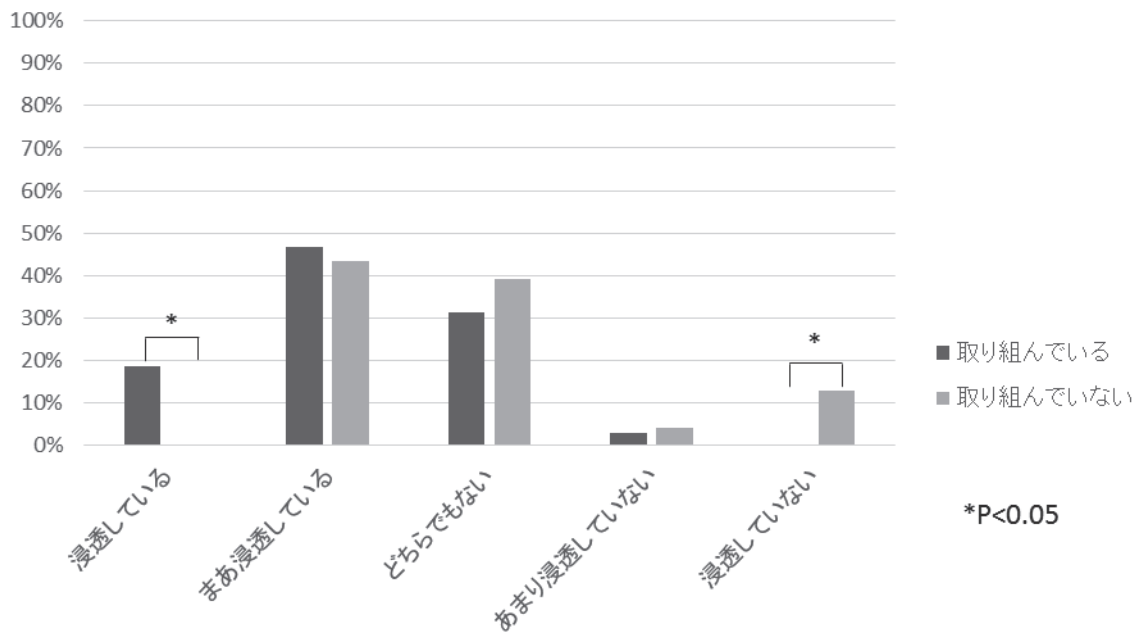


図21 取り組んでいる群とそうでない群の浸透度についての比較

5) 自由記述の分析

主なコメント

- (1) 今年のインターハイで県武道館を会場にした競技は弓道、なぎなた、柔道とありましたが、練習会場等で一番マナーが悪かったのは柔道だったそうです。非常に残念です。柔道ルネッサンスの強化を強く思いました。
- (2) 大学でコーチをしていた頃は必ず試合の最後に全員でごみを拾って帰ったり、席を譲ったりしていた。今の専門学校でも同じことをしている。また自分も積極的に行っている。柔道ルネッサンスが柔道界を変えていくと思う。
- (3) 礼法、マナー、服装、応援方法など、指導者・選手共に襟を正す必要があると思う。

柔道界の改善を要する現状にも触れられており、ルネッサンス活動のさらなる浸透及び継続の必要性が感じられるコメントが見られた ((1)). また、これまで同様、自身の活動の紹介とルネッサンスの意義 ((2)) や指導者自身としての自省や自戒を感じている回答も見られた ((3)). コメント数は上記の3件にとどまったものの、これまでに見られたコメントに近いものであり、柔道ルネッサンスの必要性、そして指導者自身の改善の必要性を感じさせる内容であった。

V. まとめ

本研究では、2010年8月28、29日に尼崎市ベイコム体育館にて開催された全日本実業柔道個人選手権大会インターハイ柔道競技監督会議参加者を対象にアンケート調査を行い、2001年より10年間行われた柔道ルネッサンスについての認知・浸透度、取り組実態の状況を把握し、効果的な活動内容を分析することにより、今後の柔道界が目指すべき方向性について示唆を得ることを目的として実施した。

1. 「柔道ルネッサンスの内容や基本理念」については共に8割前後の理解が得られていた。
2. 具体的な活動の認知度については、スピーチ (80%)、HP広報 (64%)、横断幕 (60%) の順に認知度が高かったものの、マナー向上 (51%)、クリーンアップの (33%) を除くとその他はすべて3割を切っており、全般的な認知度については改善の余地を大きく残す結果であった。また「スピーチ」、「横断幕の掲示」というルネッサンスを代表する2つの活動については、8割前後の者がその必要性を認識している結果であった。
3. 「活動の浸透度」、「選手のマナー」、「大会会場使用のマナー」、「よい変化をしたか」についてはルネッサンスにより肯定的な意見が6割前後に止まった。「応援者のマナー」、「強化選手のマナー」については、肯定的な意見が4割程度であり、更なる改善が望まれる結果であった。
4. 「柔道選手及び柔道指導者のマナー」について他競技と比べた場合、「どちらでもない」、「あまり良くない」を合わせると共に6割前後となり、改善が必要との認識を持っている事がうかがえる結果であった。自由記述からも、指導者たち自身に自戒と改善を促すべきとの意見も見られた。
5. 柔道ルネッサンスにより、柔道に対する意識は7割の者が「良くなった」、「まあ良くなった」ととらえており、柔道界にとって有益な活動としてとらえられていた。
6. 柔道ルネッサンスの継続については、「必要である」、「まあ必要である」との回答を合わせて93%の者が必要であるととらえており、また自由記述においても同様の意見が見られ、その重要性和継続の必要性が強くうかがえた。
7. 質問①の回答により、ルネッサンス理解群 (理解している、まあ理解している) とそれ以外群 (どちらともいえない、あまり理解していない) に分類し、クロス集計及びカイニ乗検定の結果、質問⑥において、理解群の方が「取り組んでいる」、「まあ取り組んでいる」と回答した割合が有意に高い数値 ($p<0.05$) を示し、「どちらともいえない」と回答した割合では、それ以外群が有意に高い数値を示した ($p<0.01$)。ルネッサンスの活動に対する理解が高い者の方が、積極的に活動に取り組んでいるという結果であり、積極的な活動を促すには理解度の向上に取り組む必要性が示唆された。
8. 質問⑥の回答により、柔道ルネッサンスに積極的に取り組んでいる群 (取り組んでいる、まあ取り組んでいる) とそれ以外群 (どちらともいえない、あまり取り組んでいない) に分類し、それぞれにおいてクロス集計及びカイニ乗検定の結果、質問⑤において、取り組んでいる群の方が「浸透している」と答えた割合が有意に高い数値 ($p<0.05$) を示し、それ以外群の方が「浸透していない」と答えた割

合では優位に低い数値 ($p<0.05$) を示した。積極的な活動を通して、ルネッサンスの浸透度に対する意識も高まることを示す結果であり、今後も様々な活動を行い、指導者の取り組みを高めていくことの重要性が示唆された。

柔道ルネッサンスは、前々回のルネッサンスフォーラム参加者、前回のインターハイ出場校の監督たちに引き続き、実業柔道個人選手権大会での代表者会議に出席した指導者の間でも、2010年の時点で一定の浸透度を持つことが伺われ、様々な正の効果をもたらしていることが推察できる結果であった。しかしながら、これまでの2回の調査結果に比べると全般的にポジティブな回答の割合が低い傾向が見られた^{8) 9)}。しかしながらルネッサンス活動の継続については93%と過去2回同様の高い必要性を感じていることから、その必要性についてはこれまでの3度のアンケート調査全てにおいて、強く感じていることが伺えた。こうした意見に答えるためにも、現在形を変えて始められた柔道MIND活動の更なる発展と充実が図られることが重要である。MIND活動の成功に向けて今研究でも示唆された活動自体の理解度・認知度の向上を図ることが、それに関わる者のポジティブな変化や意識・態度に大きく寄与するものと思われるので、今後、実際の活動充実と同時に、広報活動への注力が望まれる。

今回のアンケートは、2010年の柔道フォーラム参加者、高校の指導者に続いて実業団での指導者を対象にしたものであったが、今後も各修行段階における指導者に対して行ったアンケート調査の集計を分析し、更に傾向を明らかにして、柔道MIND活動等への参考や示唆を与えることを目指したい。

VI. 文献

- 1) 山口香 (2013) 日本柔道の論点, イースト新書, 111-116.
- 2) 松原隆一郎 (2013) 武道は教育でありうるか, イースト新書, 46-64.
- 3) 木村秀和 (2013) [柔道改革] 振興センター助成金問題中間報告を受けて. 近代柔道. 第35巻, 6号.
- 4) 宗岡正二 (2013) 全柔連だより. 全日本柔道連盟. VOL49, 1.
- 5) 全日本柔道連盟 (2013) 柔道MINDプロジェクト特別委員会の発足について
<http://www.judo.or.jp/p/32712>
- 6) 宗岡正二 (2014) まいんど. 全日本柔道連盟. VOL01, 26.
- 7) 講道館 (2001) 柔道ルネッサンスとは
http://www.kodokan.org/j_renaissance/
- 8) 山田利彦, 金丸雄介, 石井孝法ほか (2014) 柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年柔道ルネッサンスフォーラム参加者を対象に～. 了徳寺大学研究紀要. 8, 79-87.
- 9) 山田利彦, 金丸雄介, 石井孝法ほか (2014) 柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年全国高校総合体育大会柔道競技監督会議出席者を対象に～. 了徳寺大学研究紀要. 9, 17-31.

柔道ルネッサンスに関するアンケート

・性別（ 男・女 ） ・年齢（ 歳） ・都道府県（ ）

・柔道歴（ 年） ・段位（ 段）

・競技歴（ 国際大会出場 全国大会入賞 全国大会出場 地区大会出場 県大会出場 その他 ）

・指導状況（ 町道場 中学 高校 大学 実業団 警察 その他
（ ） ）

① 柔道ルネッサンスの内容を理解していますか

1.理解している 2.まあ理解している 3.どちらともいえない 4.あまり理解していない 5.理解していない

② 柔道ルネッサンスは「嘉納治五郎師範が唱えた柔道の原点に戻る」ことを基本としてさまざまな活動を行っていますが、ご存知でしたか

1.知っていた 2.まあ知っていた 3.どちらでもない 4.あまり知らなかった 5.知らなかった

③ 柔道ルネッサンスで行ってきた下記の活動であなたがご存知のものに○をつけてください

1.スピーチ 2.横断幕の掲示 3.キャッチフレーズの募集 4.全柔連 HP での広報
5.障害者柔道の支援 6.柔道手帳の作成 7.マナー向上の啓発 8.クリーンアップ 9.募
金 10.女子柔道セミナー支援 11.ポスター・カレンダーの作成

④ 柔道ルネッサンスに関するスピーチについてどう思いますか

1.必要である 2.まあ必要である 3.どちらでもない 4.あまり必要でない 5.必要ではない

⑤ 柔道ルネッサンスに関する横断幕（会場等に掲示）についてどう思いますか

- 1.必要である 2.まあ必要である 3.どちらでもない 4.あまり必要でない 5.必要ではない

⑥ 柔道ルネッサンスに積極的に取り組んでいますか

- 1.取り組んでいる 2.まあ取り組んでいる 3.どちらでもない 4.あまり取り組んでいない 5.取り組んでいない

⑦ 柔道ルネッサンスによって選手のマナーは変わりましたか

- 1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑧ 柔道ルネッサンスによって観客の応援マナーは変わりましたか

- 1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑨ 柔道ルネッサンスによって大会会場の使用マナーは変わりましたか

- 1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑩ 柔道ルネッサンスによって柔道界は良い変化をしたと思いますか

- 1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑪ 柔道ルネッサンスによって強化選手のマナーは変わりましたか

- 1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑫ 柔道ルネッサンスによって強化指導者のマナーは変わりましたか

- 1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑬ 一般的に柔道選手のマナーは他の競技の選手たちと比べてどう思いますか

1.良い 2.まあ良い 3.どちらともいえない 4.あまり良くない 5.良くない

⑭ 一般的に柔道指導者のマナーは他の競技の指導者たちと比べてどう思いますか

1.良い 2.まあ良い 3.どちらともいえない 4.あまり良くない 5.良くない

⑮ 柔道ルネッサンスは柔道界に十分浸透していると思いますか

1.浸透している 2.まあ浸透している 3.どちらでもない 4.あまり浸透していない 5.浸透していない

⑯ 柔道ルネッサンスによってあなたの柔道に対する意識は変わりましたか

1.良くなった 2.まあ良くなった 3.どちらともいえない 4.あまり良くなっていない 5.良くなっていない

⑰ 柔道ルネッサンスは今後も継続していく必要があると思いますか

1.必要である 2.まあ必要である 3.どちらでもない 4.あまり必要でない 5.必要ではない

柔道ルネッサンスについてご意見等ございましたら自由に記載ください。

--

ご協力ありがとうございました。

(平成27年11月30日稿)

査読終了日 平成27年12月17日